

第6回 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会要録

- 【日 時】 平成 28 年 8 月 26 日（金） 午後 7 時 00 分～ 9 時 00 分
- 【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3階見学者ホール
- 【出席委員】 阿部迪子 今木仁恵 加藤慎次郎 木村 浩 齋藤尚志
白石ケイ子 田口 誠 竹下 登 西上原節子 能勢方子
濱中洋子 平岡直樹 前田美和子 山本信之（敬称略）
- 【事務局】 和地クリーンセンター所長 柏倉課長補佐 他
- 【欠 席】 古川浩二 花俣延博 迫田洋平 岡内歩美
- 【傍 聴】 1名
- 【配布資料】
- 資 料 1 総括的な課題の整理 追加のご意見
参考資料 東京都内各自治体の収集回数の実際
平成 28 年度版 事業概要

1 開 会

≪事務局より配布資料の説明を行った。≫

2 前回会議要録等の内容確認について

【事務局】

第5回会議の議事録をお配りしている。次回の会議までにご確認いただき修正箇所等があればご指摘いただきたい。議事録は原則公開であるが、委員名は伏せた上で公開させていただく。補足であるが、前回会議において平成 29 年 3 月 31 日まで委員の任期延長をお諮りしご承認いただいた。今後、延長に関する所定の手続きを行っていく。

3 議 題

（1）前々回（第4回）の会議要録の内容確認について

【委員長】

何かご意見やお気づきの点はあるか。ご意見がないので、承認とする。

（2）総括的な課題の整理について

【委員長】

議題（2）「総括的な課題の整理」について、新しい資料が追加されたので、事務局より資料の説明を求む。

《事務局より、追加資料「総括的な課題の整理 追加のご意見」の説明を行った。》

【委員長】

今の事務局の追加資料の説明について、ご意見やご質問があれば。

【A委員】

追加意見の資料の中で、委員長から色々と質問や疑問が呈されている。我々はそれらに答えられる意見を出していかないとならない。

【委員長】

これまでの議論の中で、大きな課題、意見を集中しないといけない課題がいくつかあると思うので、本日はその課題にしばった形で、順に論点をあげながら、みなさんのご意見をうかがう形で進めていきたい。

【副委員長】

集団回収の議論の中で、「集団回収」と「コミュニティ」という言葉が、行ったり来たりしていて、どちらが先かという感じがある。つまり「コミュニティがあるから集団回収ができる」のか、「集団回収をしてコミュニティを作る」のかという話。武蔵野市の中でそれらが可能かどうかと論議をしてきた。それらについてどのようにしたらいいか、色々と課題整理の中にも出てきている。私は、これからコミュニティ作りをするということは難しいと感ずる。集団回収をしている団体も高齢化すると、集団回収を継続していくにはどうしたら良いか知恵を出さなければならない。学校単位の場合、PTAが主体となるが「ボランティアでやらなきゃいけないの」、「誰がやるの」、「働いているので夜にしかできない」、「土曜・日曜は自分たちの時間がある」等々なかなか難しい。私たちが関わっていたPTAの時代と異なった色々な発想は良いのだが、投げかけをどうしていくかが難しい課題だと思う。A委員が色々とモデル地区での実践のことを仰っていた。具体的な手法は良くわからないのだが、やるのであれば、行政の力を借りる手もあるなとは思う。が、本来は自分たちの力でやるべきものとも思う。そここのところが私自身の中でも、揺らいでいる。

【A委員】

私はずっと集団回収のコミュニティ作りについてこだわり続けてきた。集団回収が始まった最初のきっかけは、吉祥寺北町だったと思うが、集団回収をやっていく中で、地域のコミュニティが作られてきたという経緯がある。年数が経つうちに高齢化し、ひとつ、ふたつと無くなってきているが、だからこそ今、地域コミュニティがすごく大事だと行政も謳っている。高齢者がお互い支えあうことや、災害時の助け合い、子供たちの見守りなど、色々な問題が起きている中で、地域のコミュニティこそ大事であると思う。コミュニティ

づくりは、基本的には地域がやっていくことではあるが、地域に任せておけばできるということでもなく、「行政はどう考えているのか」ということは絶えず市民の中にあるので、行政もそのつもりで応援して欲しい。「皆さん、ぜひそれでやって欲しい」ということが示されれば、市民が頑張るきっかけになるのではないかと思い、意見として書いた。各コミセンで、地域で共有・解決すべき課題について話し合う“地域フォーラム”という事業が始められているが、テーマとして具体的な取り組み材料がないと、なかなか盛り上がりがない。こんなに良いテーマはないと思うので、集団回収をその材料として取り上げたらどうかと思った。それから、E委員が以前より、拡大生産者責任により最終的には市の回収がなくなった方が良いというご意見だが、基本的に賛成。ただし、それを補完する集団回収について、これから新しく、みなさんやりましようと言って始めることは、困難であろうと思う。新聞の販売店回収では、すでに21店舗が取り組まれているので、残りの5店舗も取り組んで頂けると市全体が網羅できるのではないかと思う。古紙の集団回収について、集団回収もやりながら行政収集にも出すという形をとっている団体もあるようだが、そこは見直しをして欲しい。高齢化によって、紙などの資源物を運ぶことが難しくなっているということならば、もう集団回収は行わないことにして、新聞販売店さんに回収してもらい、ゆくゆくは行政収集はしないところまでいければと思う。

【副委員長】

私の中の、コミュニティについての考え方、みなさんのコミュニティについての考え方、武蔵野市の中でのコミュニティについての考え方の共通理解が出来ていないように思う。市側としてなにかご意見はあるか？

【C委員】

コミュニティという話がこの議題にあがっているので、武蔵野市のコミュニティがどういうものなのかお話しさせていただきたい。全国でもたぶん武蔵野市だけであると思われるのだが、当市には「自治会をつなげるとその市の形になる」と言われような、いわゆる自治会がない。自主的に自治会活動をやられている地域があるとは思いますが、それがないところもある。コミュニティセンターが各地区ごとにあり、そのコミュニティセンターに皆さんが寄り合って地域活動をしていることが、武蔵野市の地域活動のベースである。コミュニティセンターの活動についても、他の自治体であれば行政の下請け的な活動の比重がかなり多いが、武蔵野市においては、コミュニティセンターには参加してもしなくても良い。自主運営、自主企画、自主参加、というコミュニティ三原則に基づいてコミュニティ活動が行われている。私は青梅市の住人であるが、青梅市であれば基本的には地域内の自治会に入る。強制ではないが制約としては強いものがある。その様な仕組の中で地域の課題解決については自治会が担っている。武蔵野市のコミュニティセンターは、施設の管理の部分以外の活動で、何かをしなければいけないということはなく、そこに集まった方々

が、何をやったら良いかについて、それぞれ話し合い等の中で進めてきた歴史がある。そもそもは、自治会活動自体が、戦争中の国家総動員法に基づいて作られたという経緯があり、日本が戦争に負けた時にすべて解体され、自治会は一時期無くなったが、戦後の色々な政策解除により各地域で復活してきた。現在では、たぶん全国ほとんどの所に自治会があり、無いのは武蔵野市ぐらいと思われる。武蔵野市では地域の縛りが無く、参加したい人がコミュニティを作ってそれぞれ志のあることをやっていくことで、地域活動が成り立っているという特徴がある。一方、他の地域では、自治会がその地域の福祉や防災、子供といった部分を一括的に引き受ける行政の窓口的な要素が強い。武蔵野市のコミュニティ活動は高齢化・固定化という状況にあるが、実は他の地域でも、同じ問題が同じように起こっている。コミュニティのあり方をどう評価するかは、それぞれ皆さんのお考えによるけれども、武蔵野市のコミュニティ活動というものは、今まで自由度の高い形で、参加したい人が参加する中で行われてきたが、現在、色々な課題に直面をしている状況にある、という事を補足説明しておく。

【委員長】

集団回収の意義を何に求めるのかということだろうと思う。もちろん、リサイクルを推進するという大きな目標があるのは確かで、もう一つは、経費を減らすという目的。そこに、コミュニティの醸成という一種福祉的な効果もあるだろうと思うのだが、前は戸建てとマンションの補助金額に差をつけるかどうかという議論になったが、戸建ての人は、ごみ減量意識が高く、マンションの人は意識が低い、という線引きが個人的には難しいのではないかなと思う。「コミュニティの醸成」を一つの目的として、集団回収をすることについて、みなさんがどうお考えなのか、ぜひ、教えていただきたいと思う。集団回収は何のために推進するのか、ということは、この検討委員会の中間報告をまとめる際にも重要なポイントとなる。

【D委員】

「コミュニティの醸成」については、集団回収事業の目的にあった方が良くと思う。ただし、コミュニティの醸成というのは、資源物の集団回収を実際的にどうしていくか、という話とはちょっと違い、もっと次元の高い長期的な視点の話ではないかと思う。資源物の集団回収のあり方を実際に検討する場合は、収集回数や時間、有料か無料かといった具体的なことの検討になるが「コミュニティの醸成」は、非常に長期的な視野にたった、市の大方針としてずっと続けていく問題、といったニュアンスを持っている。

【E委員】

ごみ処理の問題について、大半の市民は市がやってくれるものと考えており、分別方法や排出日を、市の決まりを守ってごみ出ししてさえいれば良い、という考え方の人がほと

んどだと思う。だが、市民も拡大生産者責任の一端に関わっているのだから、自分のごみを減らすにはどうしなければならないか、ごみのことをもっと自分の問題として考えないといけないと思う。そういうことは一般の人は普段言われていないと思う。そのようにごみの排出に対する責任を考えるとという意味で、集団回収を広めていくことは良いことだと思う。集団回収事業における「コミュニティの醸成」に関して言うと、すべてのグループでうまくいくかはわからないが、私のグループでは結果としてそれができていると感ずる。何か活動をやっていることで、関わりのある人が誰かに決められて動くのではなく、自分で提案して動いてくれるようになった。以前、たい肥作りの為に生ごみを回収していたら「Eさん、大変だから持っていく」と言って、近所の人が生ごみを持ってきてくれるようになった。集団回収関連の物を配布する時に、小さい子供たちが一緒に手伝ってくれたり、ひとつの通りの住人みんなが会話を交わすようになったりと良い感じになってきた。それを目的にしてきたわけではないが、結果としてそのような関わりができるので「コミュニティの醸成」は目的に入れた方が良く思う。ただ、私のグループでも地域の全員が参加しているわけではないので、もう少し進め方の工夫はあるかとは思ふ。

【A委員】

集団回収について、私も色々言っているが、全部で194団体ある中のほんの一部、北町、南町、関前の話を少し聞いたというぐらいで、全部の状況はわからない。知らない者がいくらかのものを言ってもしょうがないところもあると思うので、ここで一度、全部の団体にアンケートを取っていただいて、それを基にしながら議論をしてはいかがか。また、今までに集団回収をやっている人たちが、一同に介して意見交換をされた事があるかどうかかわからないが、そのような事はやってみる必要があると思う。その中から、見えてくるものがあると思うし、よその団体がやっていることを参考にして、それならうちでもやれる、といったこともあるかもしれない。集団回収事業を前に進める材料として、アンケート調査や意見交換会を、パブコメの前にやっていただければ良いと思うのだがいかがだろうか。

【C委員】

集団回収事業のとりまとめについて、担当を見ていると、きちんと書類を出すところもあれば、かなりな遅滞もある。廃棄物に対して意識を持ってやっていただいている団体もあるが、持ち回りで役が回ってきたので、前任者の情報を聞きながらやっている、というような団体もある。集団回収の状況について、アンケートなり意見交換会での情報収集となると、担当の方のご負担の心配というものもある。少なくとも実績報告という形で提出される情報というのは、集約することで団体の様子を見ているところがあるので、その部分の情報をみなさまにご報告できれば、と思っている。すべての団体についてアンケートなり意見交換会、というのはハードルが高くなってしまふので、まずは出来るところから検討したいと思う。

【F委員】

先ほどからコミュニティセンターの話が出ている。はじめは、先ほどの三原則があって、町内会に変わるものがコミセンで、コミュニティセンターを中心に地域づくりをなさい、ということでスタートしたが、なかなか地域づくりは難しい。年月を経ると貸し館業になってしまう。みなさんの要望を聞くと、部屋などスペースに対する要望が多い。牛乳パックの回収は北コミセンが始めだが、全部のセンターがやっている訳ではなく、やっていないセンターもある。先ほどの自主管理、自主運営ということ言えば、「私の所はやりません」と言えば、市としては「やりなさい」とは言えないのだと思う。“お茶わんりサイクル”も同様で、私たちも初めはやっていたのだが、例えば休館日に、周りにアパートなどあると引っ越しの時にいらなくなったものを、山のように、まるでごみのように置いていかれることがあり、運営委員からも苦情が出た。結局、“お茶わんりサイクル”は、イベントの時にやりましょうということで、年何回か文化祭や大きなイベントの時にやっている。センターによって色々特徴があるので、一律に一体でやることは、なかなか難しい。現在、北コミセンで実施している拠点回収は牛乳パックと廃食用油、園芸用の土の回収。コミセンを作る際に集団回収的なものをスタート時点ではじめてしまえば、定着できたかもしれないが、一番古いコミセンで40年も経っている現在、各々のセンターが自主的に活動しているので、なかなか集団回収的なものをコミセンで始めるのは難しい。また、コミセンは、市からの補助金で運営しているので、集団回収活動の補助金が入ると会計が大変。ゴミ袋を販売しているセンターと、していないセンターがあるが、手数料収入が発生するので、私どもは販売していない。各々のセンターで足並みを揃えることは難しいと思う。

【委員長】

集団回収の「コミュニティの醸成」について話が集中しているが、店頭回収や新聞販売店の自主回収についても、重要な論点がいくつかある。店頭回収を実施するにあたり、一定の負担を事業者が負担しており、それについて支援をすることについては、ほぼ同意が取れていると思うが、店頭回収を進めていくために具体的にどのような支援をすれば良いのか、そのことについてのご意見を伺いたい。どうすれば、店頭回収の支援ができるのか、具体的なアイデアがあればお聞きしたい。

【A委員】

店頭回収について、前田委員のご意見が書かれている“量り売り”、これはわりと個人商店でやっているところが多いと思う。袋やタッパーを持って行けば当たり前のように買える所が多々あると思うので、そういう買い方をみなさんに宣伝していくことが必要だと思う。以前、吉祥寺にあった伊勢丹の地下の食品売り場では“量り売り”の惣菜などがあったが、スーパーでは難しいのではないかと思う。市民生活の動向がそういうものを少しずつ変えていくと思うので、市民へのPRをやっていく必要があると思う。透明トレイの店

店頭回収については、一部のスーパーではすでに取り組みられているが、すべてのスーパーでの取り組みとはなっていないのが現状。取り組んでいただいているところはしっかりと市民にPRしていく。しかし、事業者さんにもあまり無理なお願いはできないので、可能なことから取り組んでいただく事で“その他プラ”を減らしていくことしかないのではないかと思う。有料化したから“その他プラ”が大きく減るとも思えない。有料化をすると、同じ袋にどれだけのものが詰められるか、という事が減量につながると思うが、10当り2円の袋に目いっぱい詰めてもらえるかと言うと、なかなか難しいことかなと思っている。

【委員長】

店頭回収を増やそうとした場合に、店側の要因、例えば消費者がトレイなどを持って行ったら受け入れて欲しいのだけれども、店頭回収している店舗が少なく持っていけないのか、店頭回収実施店舗の情報が無くてどこにどうやって持って行けば良いかわからない、といったことが縛りとなっているのか、それとも消費者の意識があまり高くなくて、事業者は受け入れたいと思って回収箱を用意して待っているのだが市民が持って来ない、ということなのか、そのあたりはどういう実態なのだろうか？

【A委員】

三多摩地区でゴミ減量に取り組んでいる市民団体が、三多摩地区の店頭回収についてアンケートを取って調べたところ、武蔵野市が一番「店頭回収について知っている」という方が少なかった。それは、働きかけがないからだと思う。ゴミ減量協議会でニュースを作っていたころに、「店頭回収にお出してください」とやったことがあるのだが、今までそれ以上にはやってこなかったという状況があり、これから“クリーンむさしのを推進する会”としては店頭回収に力をいれていこうと思っている。スーパーの店頭で回収するペットボトルは、制度の上では市が関わらない産業廃棄物扱いとすることになってしまったので、市民活動の取り組みとして、今後どのように考えていけば良いのか、行政とも話しをしていかないといけない。私どもは、ペットボトルに集中して店舗に返していこうというポスターやチラシを作ったのだが、今後やりにくくなるのかどうか。店頭にある牛乳パック、ペットボトル、トレイ等の回収ボックス、それぞれにしっかり返してくださいというPRに力をいれていった方が良いのかどうか迷っている。この間まではチラシの裏に、どこで何を回収しています、と店の名前を挙げていたのだが、これからは、なぜ店頭回収を進めて行かなければならないのか、ということをわかりやすく解説したものを作って配布していきたい。できれば、スーパーマーケットの店頭でやれたら一番良い。ペットボトルだけでなく、他の品目も含めた店頭回収の推進について行政と一緒にやれないものかと思っている。

【委員長】

情報提供という観点は大事だと思う。また、利便性を上げないと持っていけない人が多

いと思う。どうやって情報提供すればいいのかとか利便性を上げればいいのか、具体的には書けなかったのだが、消費者側の意識を上げるための具体的なことをやらないとならないと思う。

【A委員】

店舗が閉まっている時も返せないのか、という意見が書かれている。以前は、やっていたところがあるが、どんなごみもとにかくみんな突っ込まれてしまうという店側にとって非常に大変な状況があり、コンビニでは一時は止めていたが、今は回収ボックスは店の中に入れていたようだし、スーパーでも同様に店の中に入れていたところがある。私の近くのスーパーでは、時間外は鍵がかかかっていて蓋が開かない、という対応をしている。

【F委員】

私は、たいがい吉祥寺で買い物をする。以前は、店の前に並んでいた回収ボックスが全部店の中に入れてられてしまって、そこには自転車を置くようになっている。回収ボックスが表にあると持って行って入れやすいけれど、買い物をしないで、ペットボトルだけを店の中に入って捨てていくというのは…。コンビニは24時間開いているとしても、どうしても入れにくい。レジ袋を持っていくのと比べると難しい。

【D委員】

店頭回収について、いなげやさんのお話しではお金がかかりすぎるというお話しだったと思う。事業者にも気持ちよくやってもらうためには、それなりの応援をすると、ぜひ、応援して逆にお店の方でも気持ちよくやってもらえるような体制作りが必要ではないかと思う。

【委員長】

店舗側の支援も大事で、消費者側への支援も大事という事。具体的にどういった支援があるのか、例えば企業を支援する方法とは、金銭的、経済的な支援のイメージだろうか？回収機を設置する企業に対する補助金を出すとか、あるいは認証マークみたいなものを作るということも有り得るということだろうか。

【副委員長】

前回、G委員の話を聞いて、やはり企業の努力を感じた。コンビニもそうだったと思った。勝手ながら、営業時間外にも回収ボックスがあればいいなと思っていたが、市民のモラルではあるけれど、防災の関係もあろうし、やたらと家庭ごみを入れていく人などあろうし、回収ボックスはやはり中に入れて、管理もしっかりすることも企業としては大事なことで感じた。反省している。コンビニの中にボックスがあって入りにくい、という話があ

ったが、今は地域の利用者との結びつきということが感じられ、お手洗い借りますって入って行く方もいらっしゃるので、気楽に、持ってきましたという感じで、入って行けるようになるのではないかと。地域にあるコンビニとしてそのような対応が受け継がれていけば良いと思う。委員長も書かれているが、事業者への補助金というのは、どこに行っても店頭回収ができるよう回収ボックスをお店に設置してもらうには、とても必要なことだと思うが、市としてそれをどのように考えているのか、そのようなことが出来るのかどうかは、これからの思案ということなのだろう。

【委員長】

次の課題に進みたい。新聞販売店の自主回収のことについて説明があったが、古紙としての新聞の回収方法には集団回収、新聞販売店の自主回収、自治体の回収と三つが併存している形で、新聞販売店さんの方からすると、集団回収の妨げにならないように自主回収をするといった考え、集団回収を優先する形でのご意見があったと思う。また、以前の会議では、行政回収をゼロにして集団回収や販売店回収を優先すべき、という考え方がいくつか示されたかと思う。一方で販売店にとっては、一律に強制されるのは厳しいのではないかと、というご意見もあった。すなわち行政収集の頻度が減って、その分が販売店の回収に回り、販売店の回収頻度が上がることにより、製品のコストが上がってしまう可能性があるのではないかとのご意見。大切なのは、三つの回収ルートがある中で、優先順位をどのように考えるかということだと思う。これまでの議論では、集団回収が一番重要で、それから新聞販売店の自主回収があり、次に行政収集があるという順番ではないかと個人的には感じたのだが、いずれかの回収を優先するのか、例えば「自治体にとっては、行政収集に出すよりも集団回収や新聞販売店の自主回収に出して欲しい」といったスタンスを明確にするのかどうかといったことが論点としては重要だと思うのだが、その辺りについてのご意見はあるだろうか。あくまで三つの回収のルートを併存させるというのであれば、これまでと同じやり方になるのだと思う。どれかの回収を優先すべきだ、と言う考え方を示した方が良いのかどうか、といった点についてご意見を伺いたい。

【C委員】

廃棄物処理法の中では、一般廃棄物の収集に関しては、行政が責任を持つというのが本来のあり方である。紙の収集・処理に関しても本来的には行政が責任を持つもの。「お手伝いをしていただければありがたい」という事はあるが、一方で、集団回収だと対象は会員だけ、新聞販売店の回収も対象は新聞を取っている方だけなので、どうしても対象から漏れてしまう方がおられるのが武蔵野市の現状。従って、ベースとなるのは行政収集。古紙が無くなることは良いことではあるが、実際的には行政収集は絶対に続けねばならないと思う。ただし、今回の委員会の根本的な考え方として「皆が前向きに取り組む」といった場合、なんらかの行為が伴わないと「何をやっているのかわからない、気が付いたら行

政が収集している」ということになってしまう。やはり「気づき」や「きっかけ」としての活動という意味で集団回収、新聞販売店回収は、それぞれが頑張る。その中での優先順位というのは言いづらいが、少なくともベースに行政収集があった上で、どうそれぞれが頑張っていくか、というようところがひとつの姿なのではないかと思っている。

【E委員】

資源物の収集頻度のことだが、集団回収は大体月一回。市の収集は毎週ある。うちの周りを見ていると、集団回収の収集があるときはそこに出すが、そうでない日は市の収集に出している。まず出来ることとしたら、市の収集頻度を少し減らして、量的なものが集団回収の方に流れていくようにするというのは、可能ではないかと思う。

【A委員】

私も、同様なことを他の集団回収参加者たちから聞いている。行政収集が毎週有るので、集団回収をやっている人の中から市の収集にも出してしまうおとうという人たちが増えてきてしまうということがある。少なくとも2週に一回に行政収集の頻度を下げるということは、早急にやって欲しいと思う。

【D委員】

少し視点を変えた話となるが、新聞販売店の回収で扱うのは原則的に新聞古紙だと思う。古紙には、それ以外にざつ紙や雑誌など色々ある。資源物として集めるにあたり、それらについても一緒に考えなければならないのではないかと。できるだけ、新聞古紙の中に雑誌やざつ紙を一緒にして出すと運搬の費用などが減り、効率よく集められるのではないかと。ある新聞販売店の回収では、雑誌を混ぜても良いですよと書いてある。以前は、ざつ紙を混ぜて良いですよと書いてあったが、最近はずこし変わった。実際に見てみると新聞古紙は十分重量があって、それなりの価値もあると思うのだが、ざつ紙とか雑誌の薄いものは、量も少ないので資源的観点から見ると価値が低いのではないかと思う。新聞古紙と一緒に集めることで全体としてのコストは下がるのではないかと思う。

【H委員】

私は、朝日新聞を購読しているが、以前は、チラシなどは別々に出してくださいと、袋を二つ渡されたのだが、先月から一緒に入れて下さいとなった。どのように出せば良いのかよくわからないところがある。

【A委員】

先日、朝日新聞を購読されている方から、トイレットペーパー等は付けないけれども、雑誌、本も回収しますと書いたものが入ってきた、と聞いた。販売店さんも少しずつ変わ

ってきているのではないかと思うが、I委員に現状をお聞きするのが良いと思うが。

【I委員】

基本的には、今までも雑誌などは出されていたと思う。そのまま回収業者の方は持っていくので、販売店側としては関係ないといえば関係ない。今は新聞を取っているお宅自体が少ない、取っている方はごみに対する意識の高い方が多いので、ごみに対する問題点はあまりないと思う。配布された資料を見てみると、発生したごみ量の中で古紙の占める割合は全体の2割弱しかない。その中で新聞の割合となるとさらに少なくなる、そこであまり細かいことの議論になるのもどうなのかなと思った。話は少しそれるが、私は商売上、世帯の構成などをよく見ている。武蔵野市の場合、とくに、吉祥寺の場合は半分以上、6割が単身世帯だが、大体ごみ出しについては単身の方が、意識が低いものと思われる。ごみをどうにかしたいということであれば、集団回収とかコミュニティとかシステムとして出来上がっていて、現状あまり問題も生じていないものをいじるよりも、そういった単身世帯向けに何かをアピールをしていくようなこと、単身世帯をどうするのかといったことの方が大事なのではないかと思う。先程、コンビニでの店頭回収の話があったが、回収ボックスを設置すること自体危険が伴う。ただお金を払えば良いということではなく、ボックスを置くこと自体がすごく危ないことだと思う。私は、吉祥寺で商売をやっているが、朝、駅のまわりはごみだらけでひどい状況。産廃の業者さんが毎日きれいにしてくれている。この委員会がどの方向を向いているかの良くわからないが、ごみをどうにかすると言った場合、武蔵野市においては、単身世帯が半分以上占めているという現状を踏まえてものごとを進めていくのもひとつかなと思う。

【C委員】

D委員のお話にてできた件で、I委員にちょっと質問したい。収集業者が可能かどうかの話だとは思うが、新聞店回収の際に、雑誌や本など新聞でないものが出された場合に基本的にはどうされているのか。

【I委員】

販売店としては、何を出されても関係ないといえば関係ない。収集業者が捨てる時に分けるので、困るのは収集業者の手間がかかるといった部分。先ほどトイレットペーパーの話が出ていたが、ひと月に家庭から出る古紙量は、チラシを入れても10kgほど、ギュウギュウにつめて1パック、袋1枚分。余裕を見て袋2枚を差上げます、といったスタイル。トイレットペーパーのロールをお渡しする量は、雑誌を入れようが何を入れようがこちらとしては同じ。あとは、収集業者の問題。先ほど配布物が変わったというのは、業者が変わったということなのではないかと思う。販売店側は変わっておらず、負担になっているのは、収集業者の方だと思う。業者は残渣を捨てる際に分別をしなくてはならない。実際

の売り払いの細かいところまでは把握していないが、そのようなやり方だと思う。

【J委員】

先ほどのH委員のお話は、今、I委員のお話しにあったように、業者が変わったか納品先の事情が変わったかだと思う。D委員のご指摘のとおり、売り払う場合の新聞のコストとざつ紙、雑誌のコストが違うので、A委員のご発言にあった、「置いてくるロールは新聞一個だけであとはお出し出来ません」という事もあるかもしれない。最近、我々回収業者はコストがすごく高くなって困っている。事業者としては、当然ドライバーに対し給料を支払わねばならない。総務省ではこれぐらいの給料を出しなさいと指針を出しているが、我々はとても出せない。他業種に流れて行き人が集まらないので、なんらかの行動をとらないとやっていけない。新聞も最近発行部数を減らしており回収も大変。ある一定のエリアを1台の車で回る契約をしたとすると、今まではトラック1台分を十分に満たすだけの量が集まったけれども、最近では2割減で空きができる。そうするとコストに影響してくる。では何をするかというと、トラックを一杯にする努力をする。その努力の一つとして雑誌も回収しましょう、ということがおきたのかもしれない。私なら、そうする。収集する側としてはある一定量以上、トラック積載量が3トンなら3トン、それを超える量が集まる業者であれば、新聞以外のものも収集することは負担になってしまうので、敢えてする必要はないのかもしれないが、一定量、3トンに満たない、2トンや1トンで空きがある業者は、敢えてそれを前向きに進めて行くだらう。ただし、ウエス（工業用の拭布）やダンボール、ざつ紙などコストが割れるもの、軽量なもの、積載をするのに大変で実際の実例がないもの、などは避けるという傾向はあるのではないか。集まったものは、新聞は新聞、雑誌は雑誌、ざつ紙はざつ紙として流通させるために分別する。そのところは我々の努力だと思う。I委員のご発言にあった部分は、販売店としては、収集業者は自由にやって良いよということだと思う。そう言っただけだと我々も助かる。逆に新聞紙以外の回収をしてはいけない、という事になると我々は困ってしまう。

【委員長】

次に行政収集に話を移したい。行政収集について論点は色々あるが、ひとつは収集頻度を減らす議論の中で、ある品目については意見が出ていると思うが、各品目について収集頻度が減ることについて、個々の市民がどのように影響を受けるのか、具体的にシュミレーションしながら考えていく必要がある。環境の意識が高い人もいるし、そうでない人もいる中で頻度を減らすことを検討しなければならない。例えば容器包装プラスチックの収集頻度を減らすと、家の中にたまるプラスチックの量が増えてしまうとか、たまったプラスチックの臭いの問題だとかということについて、皆さんは大丈夫とお考えか、今までどおりに収集して欲しい、と考えておられるのかという事についてご意見をいただきたい。

【D委員】

収集頻度を減らせるか減らせないかという事について、出す側の視点で考えてみると、収集頻度を減らすと、当然家の中に置いておくことになる。家の中に置いておくスペースがあるかどうか、と臭いの問題が出てくる。私は、40世帯の小さなマンションのごみ置き場に毎週出している。そのごみがどの位たまるか見ているが、“その他プラ”はボリュームが大きすぎて、しかも、水分があって夏場は付着物が腐る。週一回でもかなりの山になっているが、これが2週間に一回なると倍になるので、住人から苦情が出ると思う。古紙類はそれ程かさばらないし、集団回収と販売店回収が一月に一回利用できるとなれば、減らしてもそれ程問題がないと思う。プラをなんとか減らしたいと思ったが、やはり有料化して、多量に出す人がその分経済的に負担をする。これだけ出すと自分がこれだけ払わなければいけない、という意識を持たせれば、皆がボリュームを減らしたり、店頭回収の利用をするように工夫をすると思う。そのように物理的に圧力をかけるようなことをしないと減量は無理ではないか。

【J委員】

課題の整理で分別という項目があるが、分別の種類・品目を今後広げていくという可能性はあるのだろうか。品目の中で雑誌以外の紙ごみが可燃の方に入っていると想定されている。それをリサイクルしようという動きがあり、いくつかの製紙メーカーの工場ではできるようになってきている。ざつ紙と言われるものを拾い上げることを、この分別というところでお話して良いものなのか、確認をしたい。

【C委員】

基本的には、細分化とか新たな分別品目を設定する可能性も探っていけたらと思っている。収集にあたる場合の効率性というものも視点としては重要であると思う。

【委員長】

検討項目は沢山あり、これまで出てきた議論としては、地区割りの見直し、分別品目の見直し、あまり早くするとふれあい収集の収集時間が早くなるので難しいのではないかとのご意見もあった収集開始時間の話、収集頻度については各品目についてシュミレーションし、こんな品目だったら出来るのではないかといったご意見、新たなリサイクルルート確立について、拠点回収の受け皿の拡充について、有料化するのであれば有料化するべき品目は何か、等々色々な論点があった。これらについて何かご意見はあるか。

【A委員】

行政収集について、基本にごみは行政が収集するものと決まっている、とのことだったが、市民も事業者も皆それぞれに責任があるという事ではあると思う。この会議もそう

したところで役割を果たしているのだと思う。現在、古紙の収集を週に一回、行政が行っているが、何年前か、行政から集団回収が増えれば増えるほど税金がかかる、と説明を受けた。つまり、集団回収が増えても、行政が収集に回る量は変わらないからという事だった。先ほどC委員が、まずは行政収集がベースにあると言われたが、私は行政収集をゼロにしていく方向で頑張らないといけないと思ってきた。なぜ、収集回数を減らしていくのかと言えば経費の削減が大きな理由になると思うのだが、集団回収もあり、販売店回収もあり、今まで通り行政回収もあり、という事では私としてはすっきりとしないのだが、どのように考えれば良いのだろうか？

【C委員】

特に紙についてという事でお話すると、中野区のように集団回収を主として行政収集をやめてしまった自治体もある。ただし、先ほどコミュニティのところでお話させていただいたが、前提として自治会がすべての地区を網羅しており、すべての団体が集団回収に参加する、ということで成り立っている。武蔵野市では、ベースとしてのコミュニティは参加しても良いししなくても良い、というようなどころがある。それが、武蔵野市の良さでもあると思うが、そうすると、現状ではその中から漏れてしまう人が出ざるを得ない。長期的に、行政が収集しなくても紙が資源として、有価物として回っていく世界になるのであれば、行政収集はゼロということも有り得るし、その方が望ましいとも思っているが、当面、という事で考えるとその状況は作りづらいと思われるので、ベースとしては行政収集で行わざるを得ないだろうと考えている。

【委員長】

当委員会の報告書を作成する際には、なぜ収集頻度を減らすのかを説明をしなければいけない。コストが下がるということが言えるか、又はごみ量が減るかもしれないということが言えるか、いずれにしても、頻度が減ると市民とすると利便性が下がると考える人もいると思うのでそれなりの理由がなければならぬ。先ほどまでの話では、あまり行政コストは下がらないという感触だ。すると、コスト削減の為に収集頻度を減らすとは理由として言いづらいのではないだろうか。

【C委員】

今の武蔵野市の状況を申し上げますと、基本にごみの収集頻度は、一日に必要な車両台数で積算している。その車両台数は、ごみをどの位積んで一日の仕事を終えるか、がベースになっているので、ごみが減ると当然使う車両台数が減る可能性がある。そうするとコストが下がる。ただ、ごみ量が一定量まで減って来ないと、コストの削減にはつながらないという構造がある。頻度やごみの減量という部分がコストの減に繋がらないわけではないが、その成果というのは中長期的に見ていかないとなかなか見えづらい、と事務方では

考えている。

【副委員長】

先程の話だと、イメージとしてごみ収集という大きな円の中に行政収集はあり、その円の中に集団回収と新聞の店頭回収もあって「ベースとして行政収集をする」というのは市民サービスの一環として考えて良いのだろうか？

【C委員】

市民サービスというよりは、法的責務といった方が良いと思う。

【副委員長】

当面、法的責務として行政収集をベースにやっていくわけだが、先ほどの収集頻度を下げるのはなぜか、という部分では、コストを下げることの他に、武蔵野市民にごみ減量の努力をしてもらうことでごみ減量に対する意識の拡大を狙っていると考えてよろしいか。

【C委員】

当委員会を通じて考えたことは「ごみに対する意識を変えていく」という部分では、なんらかのきっかけなり行動なりが伴わないと意識が変わってこないということ。何も変えずにただ啓発だけで、はたして行動が変わってくるかという、なかなか難しいと思っている。何かを見直すというのであれば、それは行動に繋げて、それが意識の変革に繋がっていくというような仕組みをこの委員会で考えていくべきだと思っている。ただ収集頻度を減らすのではなく、なぜ、どのような理由で変えていき、それがどのような行動に繋がるから見直しを行うんだという説明、市民に対して訴えかける意味合いを、この委員会の中で作っていく必要があると思う。

【委員長】

これまでの議論の中で、ご意見を自由に頂きたい。

【A委員】

私共の市民活動としてのごみ減量運動は、色々と考えたり、行動したりしている割には、一般の方に伝わっていない。先ほどC委員のご発言にあったように、行動が伴わないと言ったり考えたりしているだけではなかなか状況が変わっていかない。本当に、市民と一緒に行動を変えていけるのかと思う。委員会として何をどのようにまとめるか、そして市民に対しどのように伝えていくかが重要だと思う。課題のひとつは集団回収で、私は検討材料としての「コミュニティの活性化」にこだわってきて、新聞はどこが回収しようとも、あまり減ることはないと思ってきたのだが、若い人たちが新聞を購読しなくなり量が減っ

てしまっている現実の中で、どのようなことを考えなくてはならないか、あらためて考えさせられた。古紙の収集については行政収集が基本とするという事だったが、ダンボールとか古着などは新聞販売店回収があっても最終的に残ってしまうものなので、集団回収、販売店回収はどここのところを担っていくのかを整理しながら、最終的に行政の役割がどこにあるのか決めていかないとならないと思う。

【H委員】

市が集団回収を積極的に進めたいのかと思っていたら「集団回収は拡大すべきか」と資料に書かれていたのだが、市はどう思っているのだろうか？もう一つ、私の住まいは40世帯の小さいマンションで、管理組合の理事会にまかせきりで、地域のコミセンで毎年ある防災訓練にも全然参加して来なかったのだが、震災の際コミュニティ活動が盛んだったところは災害対応がスムーズだったということが契機となり、理事会の委員は地域の防災訓練に参加するようになった。防災訓練のみならず福祉に関しても呼びかけがあるのだが、ごみについても、もし集団回収が必要ならば各マンションに市からの呼びかけがあっても良いのではないかと思うのだが、市はそのようなことは考えていないのだろうか。

【C委員】

集団回収については、今までの課題の議論でもわかるように、積極的に広められるような位置づけになっていないと思っている。例えば集団回収といっても、大きなマンションで管理人がしっかりしていると、住民は普通にごみ出しをしているだけで集団回収と名前がついて、補助金が入ってくるということもある。当委員会で再々申し上げているが、市民、事業者それぞれがごみの排出者として主体的に出来る取り組みを行う、といった機会や仕組みが無いことには、市民にしても事業者にしても受け身的にならざるを得ないと思う。当委員会での課題の抽出や色々なご意見に基づき集団回収の位置づけと制度の見直しを行い、積極的に広めていけるような形になれば良いと思っている。そのような見直しができるれば、各マンション等において広めていく、といった姿が描けるのではないかと思う。

【委員長】

そのほかに、ご意見はあるか。

【A委員】

C委員からマンションの話が出たが、マンションの管理人をしている知人が何人かいるが、マンションで改装などの課題が生じたときに、なかなか住民に関心を持ってもらうことができないそうだ。防災の問題なども含め大変苦勞しているとのこと。集団回収はコミュニティの活性化を目的とし運営して欲しい、ということ行政にしっかりと示してもら

い「管理人がしっかりしていて、ただ資源物を集めればそれで用が済む」ということではなく「集団回収事業を通して、団体のなかで補助金を使いながら会員同士がお互いの関係を作り上げていく」努力をしていくようにして欲しいと思う。インセンティブとしてコミュニティの活性化を実現している地区には1kgあたり10円の補助金を出す、これからコミュニティ作りをするという団体には、最初は補助金額に差をつけた方が良いとするのか、始めから同じだけ出しながらそれを進めてくださいとお願いした方が良いとするかは、もう少し議論が必要であると思うが、方向性としては「コミュニティの醸成」を目指して欲しい。

【E委員】

集団回収を行うと、集めた資源物の目方に応じてグループにお金が入ってくる。会員同士で何に使ったら良いかを考えた。地域通貨などお金に代わるものを貰ったとしてもそんなに嬉しくはないし、たい肥化している生ごみを使って、通りにみんなで花を植えようかとも思ったが、誰かが負担になってしまうので躊躇をしている。さんざん考えたがコミュニティ作りが目的のひとつに入っているのなら、みんなで一緒に食事をして仲良くなるのが、お金の使い道としては一番良いのではないかと結論になった。集団回収の目的として、コミュニティ作りが入っていれば、そういったことに堂々と使えるので嬉しい。

【委員長】

集団回収の補助金の用途に対して、ルールを定めるのかどうか、用途に対する考え方を示すのかどうか、といったことは大切であると思う。しかし、一方で用途を制限しすぎると、学校単位の回収をしたりする際に不都合が生じるのではないかとのご意見もあった。ルールのあり方についても、考えて行く必要があると思われる。

時間になったので、本日の委員会の議論はここで終わりたい。課題解決のためのアイデアがまだ不足しているようにも思う。もしご意見等があったら、ぜひ、事務局までお寄せいただきたい。次回は中間報告（案）が事務局より示されることになると思うが、そこに反映して欲しいというご意見などがあれば、ぜひお願いしたい。

(3) その他

【委員長】

事務局より何かあるか。

「事務局より、今後の日程について説明を行った。」

【委員長】

その他に何かあるか？ （発言なし）

それでは、これにて第6回の会議を閉会とする。

以上